

令和5年度 県立竜ヶ崎南高等学校自己評価表

目指す 学校像	「すべての教育活動は生徒のために」を基本理念として、一人一人の生徒を大切にしながら、地域や社会の要望に応えられる、誠実で自主的精神に充ちた、創造性豊かな「将来社会に貢献できる人材」を育成する学校。		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成 状況
【成果】 ○ 落ち着いた環境の中で学習活動を行うことができている。 ○ 教職員の毎朝の声掛け指導を通して、遅刻の防止、身だしなみの改善等の成果が現れている。 ○ キャリア教育の充実を図り、生徒一人一人を大切にする進路支援体制のもと、生徒の適性に応じた進路指導を行っている。 【課題】 ○ 「主体的・対話的で深い学び」を実現し、基礎学力の養成と充実の両立をはかること。 ○ 自己の適性を発見し、将来の進路選択に連動した行動をとること。 ○ 部活動やボランティア活動等に参加し、自己の可能性を広げる行動をすること。 ○ 教育活動における地域や保護者・関係各機関との連携・協働による活動の機会や内容の充実をはかり「18歳成人」社会に対応できる活動が必要となること。	生徒一人一人が主体的に学習に取り組むための授業改善を進め、基礎学力の向上を図る。	① 「授業改善」を常に図りながら、生徒による授業評価を基に授業満足度3.0以上にする。 ② ICT環境の活用をはかり、きめ細かな指導体制の整備と「個に応じた指導」を充実させる。 ③ 探究的な学習や体験活動等を通じ、持続可能な社会の創り手となることのできるような資質・能力を育成する「協働的な学び」を実現する。	B
	キャリア教育の充実と進路先の開拓を推進し、全ての生徒の進路決定を図る。	④ 人生や社会を見つめる態度を養い、生徒一人一人の興味や適性に応じた進路選択を支援し、卒業予定者全員の進路決定を目指す。	A
	基本的生活習慣を身に付け「18歳成人」社会に対応した行動がとれることを目指して生徒の自立を支援していく。	⑤ 制服の着こなしや挨拶の励行を徹底し、社会人としてのマナーを意識させる。時間や期限を守って生活する習慣を身に付け、社会人としての責任や信頼を自覚させる。自ら環境を整え、他人を思いやる精神を学び、いじめのない環境を維持していく。	A
	キャリアパスポートを活用して学校行事における生徒の達成感や成就感を養う。特別活動全般の参加の機会を増やし、内容の充実を図る。	⑥ HR等でキャリアパスポートを活用し、生徒自らが学びを振り返り、将来を見通す機会を増やす。 ⑦ 特別活動への参加の機会を増やし、参加生徒自身の満足度や達成感を高めることを目指す。	B
	生活体験や社会体験を通して、社会の変化に適切に対応できる力を育成する。	⑧ 学校での環境美化や地域社会での体験活動を奨励し、道徳的实践力の育成を図り、社会で生きる力を育む。	B
	地域への働きかけを充実させ、地域に支えられる学校、地域を支える人材を育てる学校を目指す。	⑨ 保護者との連絡・連携に努め、教育活動への理解を求める。 ⑩ 地域社会や近隣市町村の小中学校との連携に努め、地域になくてはならない学校作りを目指す。	B
	効率的な業務の遂行と労働時間の短縮を目指し、労働の質を高める。	⑪ 校務支援システムの活用と、業務の電子化による効率化を更に進める。 ⑫ 部活動活動方針に沿った指導体制を確立し、適切な休養と活動時間の確保に努めることで、効率的な活動と成果を目指す。 ⑬ 「勤怠管理システム」利用を徹底し、在校時間を各自が把握し、働き方改革への意識改革を図る。	A
	通級指導実施に向けた校内体制を整備し、生徒実態の把握、研究と指導方法の確立を目指す。	⑭ 校内準備委員会を発足し、通級指導の在り方を研究する。 ⑮ 生徒一人一人の教育的ニーズ・実態を把握し、個別的教育支援計画及び指導計画を作成し、実態に応じた指導・評価の確立を目指す。	B

三つの方針		具体的目標	評価		次年度(学期)への主な課題
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	(長期的目標) 地域や社会の要望に応え、誠実で自主的精神と創造性豊かな感性を備えた社会に貢献できる人材を育てる。	B	B	地域や社会に求められる姿を意識した教育活動の展開と3年間を見通した活動計画や目標を設定する。
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	(中期的目標) ICT機器の活用による個別最適化した学びや体験的な学びを重視した教育課程の編成と実施により、自発的学習を引き出し、基礎学力の向上と個々の適性に応じた進路の実現を目指す。	B		教育活動の質的向上を目指し、生徒の意欲や能力を引き出す活動を展開する。
	「入学者の受け入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	(短期的目標) 社会規範に基づく生活を送り、他者の存在を尊重し様々な活動を通して自らの可能性を伸ばそうと努力し、将来地域に貢献したいと強い意欲のある生徒を求める。	B		本校の教育理念の浸透と活動を発信するための方法や機会を開発していく。

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教科指導		わかりやすい授業を展開するとともに授業改善を常に図る。	授業研究、各種研修等とおして、生徒が「わかる」「できる」を実感する授業を目指す。 ①③⑮	B	B	生徒のICT活用頻度をさらに高める。
			習熟度別指導、少人数指導などにより、生徒に対してきめ細やかな指導を行う。 ①②⑮	B		
教科	国語	基礎学力の定着を図る。	生徒の実態に合わせて教材・授業内容を工夫し、基礎学力を向上させるとともに、生徒による授業評価を基に授業満足度を3.0以上にする。 ①	A	A	積極的にNIEを授業で活用し、社会生活に必要な言語技能と学習意欲の向上を図る。
			言語の4技能「聞く・話す・読む・書く」それぞれの技能を向上させる。 ①②③	A		
			NIEの活用で生きた国語に触れ、学習意欲を向上させる。 ①③	B		
		進路を実現する指導を行う。	社会生活で必要とされる言語技能を身に付けさせる。 ③	A		
			進学希望者の実力を養成する個別指導を計画的・継続的に行う。 ①②③	B		
	地歴・公民	基礎学力の定着・向上に努める。	生徒の実態に即した教材を精選する。 ①②③	A	A	次年度はICT機器のより有効な活用方法について検討・実施していきたい。
			授業の規律を保つ(忘れ物・遅刻・私語等への指導)。 ⑤	A		
			中学校までの学習内容の確実な定着を図るとともに、発展的な学習内容を取り入れ、生徒一人ひとりの進路実現に対応できる学力を付ける。 ②③④	A		
		生徒の学習意欲を高める指導を工夫する。	視聴覚教材、グループ学習など、作業的・体験的な学習活動を取り入れ、教科に対する興味関心を引き出し、また、発問を工夫し、生徒自らが考える授業を展開する。 ①②③	B		
			ICT機器を活用し、資料集・現物史料などを用いることで学習内容の理解を深める。 ①②	B		

数 学	基礎学力の定着を図る。	義務教育段階の学び直しを適宜取り入れ、基礎的、基本的事項の確認を図り、高等学校学習内容へ切れ目なくつなげる。 ①	A	A	就職試験、公務員試験、医療看護系学校の試験等、それぞれの試験の特性に対応した指導を充実させる。
		習熟度による編成、少人数編成による授業を科目の特性に応じて実施し、生徒の理解度を高めるとともに個別最適な学びの実現を図る。 ②	A		
		I C Tの活用、教材の工夫等とおして生徒が「できた」「わかった」を実感できる授業を展開するとともに生徒の授業満足度において数学科として3. 0以上を目指す。 ①②	A		
	進路を実現する指導を行う。	就職試験問題や医療看護系学校の入試問題等の研究をとおして、生徒への学習指導に還元する。 ④	B		
		I C Tを活用して、自主学習・家庭学習の習慣を身に付けさせる。 ①④	B		
理 科	自然の事物や現象に見られる基礎的・基本的な原理や法則の定着を図る。	授業内容を基礎的・基本的なものに精選し、自然科学に興味・関心を持つ授業を展開するように努める。 ①	A	A	より多くの実験・観察を取り入れ、科学的に探究する態度を定着させる。また、ICT機器を生徒が利用する活動を増やす。
		基礎学力の定着を目指し、基本問題の復習を多く取り入れ、基礎力の定着を図る。 ①	B		
		ノートやプリントなど課題の提出や授業のふりかえりを徹底させ、学習内容の理解状況を的確に把握する。 ①	B		
	知的好奇心や探求心を喚起し、自分なりの自然観を持たせる。	視聴覚機器やコンピューター等、ICT機器を積極的に活用し、身の回りの自然現象に生徒が興味関心を持つような題材を用いて授業を行うように努める。 ①②	A		
		実験・観察・実習を多く取り入れ、直接見たり触れたりする機会を増やし、理科の楽しさ・不思議さを体感させる。 ①②	A		
保 健 体 育	基礎体力の向上を図る。	体力テストに集中させ、前年度よりも記録が伸びるよう努力させる。 ②⑤	B	A	授業に取り組む習慣は身についた。体育の授業でI C T等の活用による興味関心を持たせることは課題である。
		授業を大切にし、真剣に取り組めるよう努める。 ②③	A		
		各種の運動の実践にICT機器の活用を図り、生涯スポーツ活動に興味・関心を抱かせる授業改善に努める。 ①②	B		
	規則を守れるように努める。	授業開始等の時間を守らせ、全体での集合・準備体操を定着させる。 ⑤	A		
		授業に相応しい服装・靴の履き方を指導し、徹底を図る。 ⑤	A		
芸 術	様々な音楽に親しむ。	様々な国の歌に親しみ、楽曲の特徴を捉えて歌唱する。また、生活に関係する音や音楽を認識・分析することで、音楽が人間社会に大きくかかわっていることを感じる活動を取り入れる。 ①②⑥	A	A	音楽と人間の生活が密な関わりがあることを認識することができた。楽器の基本的な演奏方法を身に付けることが課題である。
		ミュージカル、ホラ、クラシック音楽等を鑑賞し、その良さを感じ取り、それらに親しむ心を育てる。 ①⑥	B		
		TVやSNSで流れる音楽を取り上げ、音楽を身近に感じ取ることができるようにする。 ②⑥	A		
	楽器の演奏技術を身に付け、表現する楽しさや喜びを感じとる。	楽器の演奏に必要な基礎知識の定着を図り、音楽について生徒の理解度を高める。 ①	A		
		ギター、ハンドベルなどの基本的演奏法を身に付ける。 ①	B		

		独奏、またはアンサンブルで演奏することを通して、表現する喜びを感じ取ることができるようにする。 ②	A		
英語	基礎学力の定着と応用力の育成を目指す。 コミュニケーション能力・態度の育成を図る。	学び直しと振り返りに重点を置いた授業を展開する。ICTを活用するなど授業形態の工夫を図るとともに、自己の考えを深める言語活動を取り入れ、交流を通じて思考を広げる機会を充実させる。 ①②	A	A	外部の検定等の積極的活用と事前指導の充実により、生徒の学習意欲向上を図る。
		教材を吟味するとともに、プリントや学習ノート、ファイル等を適宜活用し、学習効果を高める生徒同士の学び合いを支援する。板書や発問に、生徒の学びを引き出す工夫を施す。 ①②	A		
		外部の検定やコンテスト等を活用し、生徒の学習意欲を喚起する。個々に対応した指導を継続的に行う。 ①③	B		
		教科内での研修や情報の共有を積極的に行い、授業内容の精選と指導力の向上に努める。 ①②	A		
家庭	家庭生活に関する知識と技術を総合的に習得させる。	生徒の実態を十分に把握し、授業展開において無理のない年間指導計画を策定し、個々に合わせた指導を計画的に継続する。 ①②	A	A	座学で知識を学ばせると共に実習を通じて理解を深化させ、学習意欲、生活の充実向上を図る態度を育てる。
		分野によってICTを活用するなど授業形態を工夫し、生徒の興味・関心を引き出し、自ら学習する主体的な心を育成する。言語活動を通して、自己と他者との考えを併せて理解を深め、思考を広げる機会を充実する。 ①②	A		
		課題提出を通じて学習理解度を確認し、理解不足箇所の把握に努め、個々に合わせた指導で活かす。 ①	A		
		実習や学習を充実させ、生活に活かすことができる技術の向上を図る。 ①③	A		
	自分及び家族の生活の向上を図る態度を育てる。	家庭生活や学校生活での問題点を把握し、授業や家庭クラブ活動を通じて研究的な活動ができるようにする。 ③	B		
情報	情報活用能力の育成を図る。	基本的な情報技術と情報を扱う方法を身につけさせる。 ③	B	B	タブレット端末の持参を徹底し、授業への積極的な参加を促す。生徒の関心を引きつける教材で集中力を高め、実践的な学びの場を実現する。
		情報に関する法規、情報モラルを身につけ、情報社会と人間との関わりについて考えさせる。 ②③	B		
		officeアプリケーションの基本操作を身につけさせる。 ③	B		
		プログラミングを体験し、その考え方を身につける。 ③	B		
	情報の科学的理解と技能・表現力の育成を図る。	適切な情報の整理、基礎的・基本的内容の活用と応用を身につけさせる。 ②③	B		
		情報及び情報技術を問題の発見と解決に、効果的に活用するための技能を身につけさせる。 ②③	B		
		コンピュータにおいて、情報が処理される仕組みや表現される方法を理解させる。 ③	B		
		実践的体験型学習により、情報の理解を促す。 ①	B		
教務	教育課程編成を工夫するとともに、授業時数の確保に努める。	カリキュラムマネジメントの視点から、教育課程を計画的かつ組織的に編成するとともに、本校の抱える諸課題について、検証及び改善に努める。 ③⑧	B	B	ICT活用を軸とした授業改善をより一層進めるため、授業展開の好事例を基にした実践的な研修を企画する。
		授業の振替を基本とし同一教科内の代理授業など、授業交換を適切に行い授業時数の確保に努める。 ①	A		
	指導方法の工夫・改善を進め、基礎学力の定着を図る。	ICTの活用や教材の工夫をとおして、わかりやすい授業の実践、既習事項の学び直し、個別最適化された学びを適時適切に取り入れることで基礎学力の定着を図る。 ①②③	B		

		単元に応じて、ICT活用、ペアワーク、グループ活動などを積極的に取り入れ授業改善を図る。 ①②	B		
	広報活動の充実に努める。	中学生体験入学会や学校説明会などの実施、中学校における本校教育活動紹介、本校Webページの充実、中学校訪問による情報交換等をととして、本校教育活動全般の情報発信を図る。 ⑩	A		
図書	図書室の整備に努め、環境を整える。	室内の美化に努めるとともに学習室としての機能を工夫し、利用しやすい環境を整える。 ②⑦	B	B	担当等と連携し、利用者数・貸出数の増とともに、授業等での図書室利用の向上を図る。
		購入希望調査を行い、希望図書の購入と蔵書量の増加に努める。 廃棄基準に基づいて適切な処分を実施し、購入希望調査に基づいた蔵書を増やす。 ③⑥⑦	B		
	本に親しむ習慣を身に付けさせる。	新刊のPRに努め、利用率の向上を図る。 ⑦⑧⑨	B		
		授業やHRで、図書室資料が積極的に活用されるよう働きかける。 ⑦	B		
情報	教育DX化の推進	教育DX化の推進に向けて、学校全体のネットワークやICT環境を整備し、効果的な活用方法の提案や教職員の研修を行い、教育現場におけるICTの活用促進に取り組み、学校全体の教育力を高める。 ⑪	A	A	学校のICT環境とネットワークの拡充、DX化を推進することで、効率的な校務運営と質の高い教育を実現する。
	情報リテラシー力向上の支援	教職員のICTリテラシー向上のために、適切な研修プログラムを企画・実施し、その成果を評価するとともに、情報化教育に関するアドバイスを提供することで、教職員の情報リテラシーの向上を支援し、より質の高い教育の推進に努める。 ②	A		
特別活動	キャリアパスポートを活用した学校行事によって生徒に達成感や成就感を与え、一人一人の自主性、主体性の向上を図る。	生徒会役員、生徒会幹事が中心となり、各学級・各専門委員会と連携を図りながら、より良い学校行事を自主的に運営できるように支援する。 ⑥⑦	A	A	生徒会を中心に校内・校外のボランティア活動を実施できたが、年間を通して継続することが出来なかったため、継続的な活動を増やす。
		翔南祭やクラスマッチなどの学校行事におけるキャリアパスポートの活用を通して、各自の心に響いた行事の企画・運営を振り返り、自己の成長に気づかせ今後の行事につなげるとともに各自が達成感や自己肯定感を構築できるようにする。 ⑥⑦	B		
	部活動の活性化を図る。	部活動活動方針に沿った指導体制を確立し、複数の顧問で協力しながら、生徒、教員双方の適切な休養と活動時間を確保する。 ⑫	B		
		各部活動の自主的・自発的な活動を支援し、部活動加入率を向上させて活動の活性化に努める。 ⑦	B		
	ボランティア活動の推進を図る。	花壇プロジェクトや各種ボランティア活動への積極的な参加を促し、生徒の自主性を育み、より多くの生徒が充実した体験ができるよう努める。 ⑥⑦⑨	A		
生徒支援	規範意識と基本的生活習慣を身に付けさせる。	服装容儀指導や段階的指導・遅刻指導・登校時の一斉指導を実施して、規範意識や基本的生活習慣の確立を図る。 ④	A	A	「18歳成人」社会を意識しながら、基本的生活習慣の定着や服装容儀に対する意識の高揚を図り、挨拶やコミュニケーションができる生徒の育成及び支援を行う。
		「18歳成人」社会に対応するために、パブリックとプライベートの区別ができる生徒の育成に努める。 ④	B		
		校内巡視をきめ細かく行い、問題行動の未然防止に努める。 ⑧	A		
	自他の生命を尊重し安全に生活する態度を養う。	スマホ安全利用教室や交通安全講話を実施し、自他の生命尊重を意識させる。 ⑦⑧	A		
		自転車点検・バイク実技講習会を実施することで安全運転の心構えや技術を養う。 ⑦⑧	A		

		薬物乱用防止講話や学年集会などを行い、青少年の犯罪防止に努める。	(7)(8)	A	
	保護者・地域との連携	祭礼巡視や交通安全運動、朝の声かけ運動などで、PTA役員・生徒指導委員と連携を図る。	(7)(8)	A	
進路支援	キャリア教育の視点から進路指導を進める。	進路ガイダンスや進路講演会等を実施し、生徒自身が将来を見据えた進路選択ができるような態度を育てる。	(4)	A	多様化する生徒の進路を実現するために、選択の幅を広げ、生徒が納得の高い進路選択が出来るよう進路支援を計画・実行する。
		学習と進路選択の結びつきを明確に捉えられるよう、教科と協力し横断的に進路支援を行う。	(2)(3)	B	
		キャリアパスポートを活用しながら、学習や学校行事の取り組みを、生徒自身が振り返り、これからの生き方を選択できる能力や態度を養い、社会人としての基礎的資質・能力の育成を行う。	(4)(6)(8)	A	
		インターンシップや介護福祉体験等、体験型学習の機会を与え、さらに事前・事後指導を通して、生徒が進路決定のイメージを描き、自分の課題として具体的な目標を設定できるよう支援する。	(3)(4)(8)(9)	A	
	生徒の進路希望100%の実現を目指す。	マナトレやClassi、基礎力診断テスト等を活用し、基礎学力の育成・定着の支援を行うとともに、資格取得を奨励する。	(1)(2)	A	
		伝える力（話す力）、受け取る力（聴く力）を含むコミュニケーション能力を育成するために、プレゼンテーションや作文指導、面接指導等を学年と協力して行う。	(2)(4)(6)	B	
		地域社会との連携に努め、地元企業の求人開拓を行い、生徒に最新の情報を提供する。	(9)(10)	A	
		多様化する入試制度について、教員・生徒が仕組みを理解し進路活動できるよう支援する。	(2)(4)	B	
保健厚生	健康で安全な学習環境の整備に努める。	施設・設備等の安全点検や環境衛生検査を定期的に行い、安全教育を推進する。	(8)	A	生徒が健康かつ安全に学校生活を送れるように、環境の整備・確保に努める。
		日々の掃除を通し学習環境の整備と美化意識を高める。また、清掃活動において重点をおいた取り組みができるよう努める。	(5)(8)	B	
		避難訓練等を通じ自己危機管理能力を身に付け、非常時に適切な行動が取れるようにする。	(8)(9)(10)	B	
	健康教育を推進し、健康に生きる知識と自己肯定感を育てる。	健康観察と欠席状況把握を徹底し、生徒の心身の健康に必要な保健指導や健康相談活動を行うように努める。	(5)(9)(15)	A	
		感染症予防教育・対策に努め、生徒自ら行動できるよう習慣付けを目指す。	(4)(5)(8)(9)	A	
		スクールカウンセリングの活用をより広め、生徒の精神的ケアや自己肯定感の育成に努める。また、スクールカウンセラー、SSW、関係機関等と連携を図り、チームでの生徒支援を展開する。 専門家による性に関する講演等を実施し、性に関する正しい知識を習得させるとともに自他を尊重し相手を思いやる心を育てる。	(4)(5)(9)(10)(15) (5)		
渉外	学校・保護者・地域との関係強化に努める。	案内文書等を工夫し、行事に親しみを持たせる。	(9)	A	一年をとおして各種行事に参加した。より多くの保護者、教員に働きかけ、社会の変化や子供たちとのかわり方をともに学び、意識を高め続けていく。
		案内文書が確実に保護者の手に渡るよう工夫し、徹底する。（郵送、ホームページ）	(9)	A	
		総会や各種行事への保護者の参加率を高め、内容の充実を目指す。	(9)	B	
		PTA役員・生徒指導委員会の活動の活性化を図り、祭礼巡視、乗車指導、朝の声かけ運動等の行事に職員と連携して活動する。	(9)	A	

	P T A事業の充実を図る。	広報誌「くすの木」を年2回発行し、学校や生徒の様子を知らせ、情報提供に努める。	⑨	A	
		校外研修の内容を検討し、参加を積極的に呼びかける。	⑨	B	
		P T A評議員会の円滑で効率的な運営を図る。P T A総会の参加率を向上させる。	⑨	B	
1 学 年	ルールを守る。	基本的な生活習慣を身に付けさせる。	④⑧	A	A
		服装容儀指導と日常生活指導を通して制服をきちんと着る習慣を身に付けさせる。	④⑧	A	
		進路に向けた目標を設定し、正しい判断力に基づいた自己管理能力を身に付けさせる。	④⑧	B	
	基礎学力の向上に努める。	生徒の実態に応じた授業を行い、個々の能力の確実な進歩を図り、授業の改善を図りながら、計画的に基礎学力を向上する。	①	A	
		授業を受ける態度が適切であるよう指導する。	①④	A	
		各種検定等の資格取得を奨励し、意欲的な生徒には課外等で指導する。	③	B	
	豊かな心を育む。	部活動や学校行事に積極的に参加させ、感動体験を通し、自主性・創造性を育む。	⑤⑥	A	
		清掃を徹底するとともにボランティア活動への参加を促し、勤労や奉仕の心を育む。	②④⑦	B	
		日々の生活のなかで意識的に関わることで、好ましい人間関係が築けるよう援助する。	⑥	A	
2 学 年	基本的な生活習慣の確立を図る。	遅刻・欠席指導の徹底を図るべく、家庭との連絡を密にする。	④⑧	A	A
		服装容儀指導を中心に、場に応じた制服の着こなしをする習慣を身に付けさせる。	④⑧	A	
		正しい言葉遣い、聞く姿勢、挨拶がしっかりできるよう指導する。	④⑧	B	
	基礎学力の向上に努める。	生徒の実態に応じた授業を行い、個々の能力の確実な進歩を図り、HR活動や総合の時間でもICT機器を取り入れ、計画的に基礎学力の向上を図る。	①②③	A	
		定期考査ごとにキャリアパスポートを活用し、目標をもって前向きな授業・考査を受ける態度を育成する。	①⑥	A	
		就職及び進学希望者に対し模擬試験を実施し進路決定に必要な学力を身に付けさせる。	②③	B	
	豊かな心を育む。	自己管理能力を高め学校行事に積極的に参加させ、様々な経験を通して自主性・創造性を育む。	③⑤⑥	A	
		清掃を徹底して行うことで、勤労や奉仕の心を育む。	⑦⑧	B	
		HR活動を通じて好ましい人間関係が築けるよう援助する。	②⑥	A	

1年間を通じて、基本的な生活習慣を身に付けさせることを指導してきた。来年度に向けて、一層基礎学力の定着を図るとともに、進路実現に向けての取り組みを充実させていきたい。

今後の本格的な進路活動に向けて、普段の学校生活から継続的な指導・支援を徹底し、基本的な生活習慣や基礎学力の定着により一層力を入れる。

		インターンシップや講演会等を通して、社会人として求められる資質を身に付けさせる。	③④⑦	A	
3 学 年	基本的生活習慣の確立を図る。	毎日の服装容儀指導を通し、身だしなみを整える自己管理能力を身に付けさせる。	⑤	B	3年間を通しての指導の成果として生徒の進路実現ができた。
		場に応じた正しい言葉遣い、挨拶が身に付くよう指導する。	⑤	A	
		家庭と連携し、基本的な生活習慣や規則正しい生活のリズムを身に付けさせる。	⑤⑨	B	
	基礎学力の向上と進路実現を推進する。	生徒の実態に応じた授業を通して、生徒のコミュニケーション能力、基礎学力を高める。	①②③	A	
		積極的な資格取得に向け、努力させる。	②③	B	
		定期的な個人面談（年間4回）、LHRや総合的な探究の時間、進路説明会等を通して進路意識の高揚を図り、一人一人のニーズに対応した進路先の希望を実現する。	②③④	A	
	豊かな心を育む。	家庭との連絡・調整を密にし、生徒・保護者と更なる連携を図る。	⑨	A	
		部活動、学校行事、学年行事等を通して、素晴らしい経験を積ませ、自主性・創造性・協調性を育む。	⑤⑥⑦⑨	A	
		清掃を徹底して行うことで勤労や奉仕の心を育む。	④⑧	B	

評価の判定基準 A…大変よくできている B…良くできている C…やや不十分 D…不十分